

---

**【改訂版】**  
**平群町都市計画マスタープラン**

---

平成 30 年 3 月  
平群町



# 目 次

|                                            |           |
|--------------------------------------------|-----------|
| <b>序章 はじめに</b> .....                       | <b>1</b>  |
| 1. 都市計画マスタープランの概要 .....                    | 3         |
| 1) 都市計画マスタープランとは .....                     | 3         |
| 2) 役割 .....                                | 3         |
| 2. 改訂都市計画マスタープラン .....                     | 4         |
| 1) 計画改訂の背景 .....                           | 4         |
| 2) 位置付け .....                              | 4         |
| 3) 計画期間 .....                              | 5         |
| 4) 都市計画マスタープランの構成 .....                    | 5         |
| <b>第Ⅰ章 平群町を取り巻く状況</b> .....                | <b>7</b>  |
| 1. 平群町の概況 .....                            | 9         |
| 1) 平群町の現状 .....                            | 9         |
| 2) 住民意向 .....                              | 20        |
| 3) 近年のまちづくり動向（まちづくり戦略） .....               | 23        |
| 2. 時代の潮流と課題 .....                          | 26        |
| 3. 上位・関連計画 .....                           | 28        |
| 1) 平群町第5次総合計画（H25.4） .....                 | 28        |
| 2) 平群町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略（H28.3） ..... | 30        |
| 3) 奈良県都市計画区域マスタープラン（H23.5） .....           | 31        |
| 4) 第4次奈良県国土利用計画（H21） .....                 | 32        |
| 4. まちづくりの基本的課題 .....                       | 33        |
| <b>第Ⅱ章 全体構想</b> .....                      | <b>37</b> |
| 1. 目指すべきまちの姿 .....                         | 39        |
| 1) 将来像と基本理念 .....                          | 39        |
| 2) 将来人口フレーム .....                          | 40        |
| 3) まちづくりの基本方針 .....                        | 41        |
| 4) まちづくりの体系 .....                          | 43        |
| 2. 将来都市構造 .....                            | 44        |
| 1) 将来都市構造の考え方 .....                        | 44        |
| 2) 将来都市構造 .....                            | 44        |
| 3. まちづくりの分野別方針 .....                       | 47        |
| 3.1. 土地利用の方針 .....                         | 47        |
| 1) 計画的な土地利用等 .....                         | 47        |
| 2) 都市的土地利用 .....                           | 49        |
| 3) 自然的土地利用 .....                           | 51        |
| 3.2. 道路・交通体系の方針 .....                      | 53        |
| 3.3. 個性豊かなまちづくりの方針 .....                   | 57        |
| 3.4. 生活環境施設の方針 .....                       | 61        |
| 3.5. 安全・安心なまちづくりの方針 .....                  | 65        |
| <b>第Ⅲ章 地域別構想</b> .....                     | <b>67</b> |
| 1. 地域別構想について .....                         | 69        |
| 1) 地域別構想とは .....                           | 69        |
| 2) 地域区分 .....                              | 69        |
| 2. 東部地域 .....                              | 70        |
| 2.1. 地域の概況と主要課題 .....                      | 70        |
| 1) 地域の概況 .....                             | 70        |
| 2) 地域の主要課題 .....                           | 70        |

# 目 次

|                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| 2. 2. 地域の将来像.....                | 71        |
| 2. 3. 地域づくりの方針.....              | 71        |
| <b>3. 北部地域.....</b>              | <b>75</b> |
| 3. 1. 地域の概況と主要課題.....            | 75        |
| 1) 地域の概況 .....                   | 75        |
| 2) 地域の主要課題.....                  | 75        |
| 3. 2. 地域の将来像.....                | 76        |
| 3. 3. 地域づくりの方針.....              | 76        |
| <b>4. 南部地域.....</b>              | <b>80</b> |
| 4. 1. 地域の概況と主要課題.....            | 80        |
| 1) 地域の概況 .....                   | 80        |
| 2) 地域の主要課題.....                  | 80        |
| 4. 2. 地域の将来像.....                | 81        |
| 4. 3. 地域づくりの方針.....              | 81        |
| <b>5. 西部地域.....</b>              | <b>85</b> |
| 5. 1. 地域の概況と主要課題.....            | 85        |
| 1) 地域の概況 .....                   | 85        |
| 2) 地域の主要課題.....                  | 85        |
| 5. 2. 地域の将来像.....                | 86        |
| 5. 3. 地域づくりの方針.....              | 86        |
| <b>第Ⅳ章 実現に向けて .....</b>          | <b>89</b> |
| 1. まちづくり推進の基本的な考え方.....          | 91        |
| 2. 都市計画マスタープランに基づく市内推進体制の充実..... | 92        |
| 3. 住民参加のまちづくり.....               | 93        |
| <b>◇資料編.....</b>                 | <b>95</b> |
| □計画策定の経緯 .....                   | 97        |
| □用語解説 .....                      | 98        |

## 序章 はじめに



# 1.都市計画マスタープランの概要

## 1) 都市計画マスタープランとは

都市計画マスタープランとは、「市町村の都市計画に関する基本的な方針（都市計画法第18条の2）」のことであり、市町村が主体となり、住民の意見を反映させつつ、長期的な展望（概ね20年後）に立ったまちづくりの将来像を定め、その実現に向けた土地利用や都市施設などの都市計画に関する基本的な方針を定める計画です。

また、都市計画マスタープランは、「平群町第5次総合計画（議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想）」並びに「奈良県都市計画区域マスタープラン（都市計画区域の整備、開発及び保全の方針）」に即して定めるものとされています。

本町では、平成20年に現在の計画が策定されています。

### 都市計画法

（市町村の都市計画に関する基本的な方針）

第十八条の二 市町村は、議会の議決を経て定められた当該市町村の建設に関する基本構想並びに都市計画区域の整備、開発及び保全の方針に即し、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針（以下この条において「基本方針」という。）を定めるものとする。

2 市町村は、基本方針を定めようとするときは、あらかじめ、公聴会の開催等住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。

3 市町村は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表するとともに、都道府県知事に通知しなければならない。

4 市町村が定める都市計画は、基本方針に即したものでなければならない。

## 2) 役割

都市計画マスタープランは、まちづくりの指針としての役割を担っています。よって、計画を策定することにより、次のような効果が期待されます。

- ・まちづくりの将来像や方針を示すことにより、住民、企業等、行政の理解が深まり、その方向性を相互に共有することができます。（協働のまちづくりのよりどころ）
- ・都市計画マスタープランに即して各分野の具体的なまちづくり（土地利用、道路、公園、河川、住宅地等）を進めることにより、庁内横断的な調整を図ることができます。
- ・都市計画マスタープランに即して、土地利用規制や各種事業の都市計画決定及び変更を行います。

## 2.改訂都市計画マスタープラン

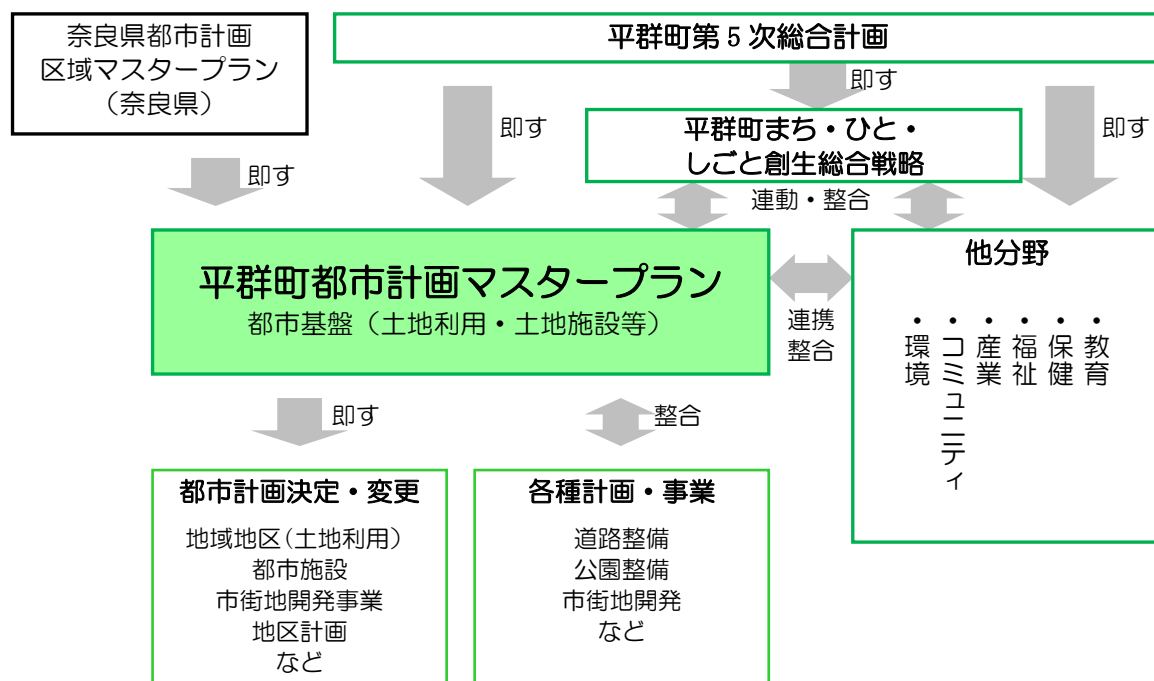
### 1) 計画改訂の背景

本町では平成 20 年に平群町都市計画マスタープラン（以下「現行MP」という。）を策定しました。

その後、人口や土地利用、各種事業の推進など平群町の概況や平群町を取り巻く社会経済情勢が変化し、加えて、「平群町第 5 次総合計画（H25）」「平群町人口ビジョン・総合戦略（H28）」「奈良県都市計画区域マスタープラン（H23）」など上位・関連計画が策定・改訂されたことから、これら変化への対応、各種計画との整合を図るため、都市計画マスタープランの改訂を行います。

### 2) 位置付け

都市計画マスタープランは以下のように位置付けられます。

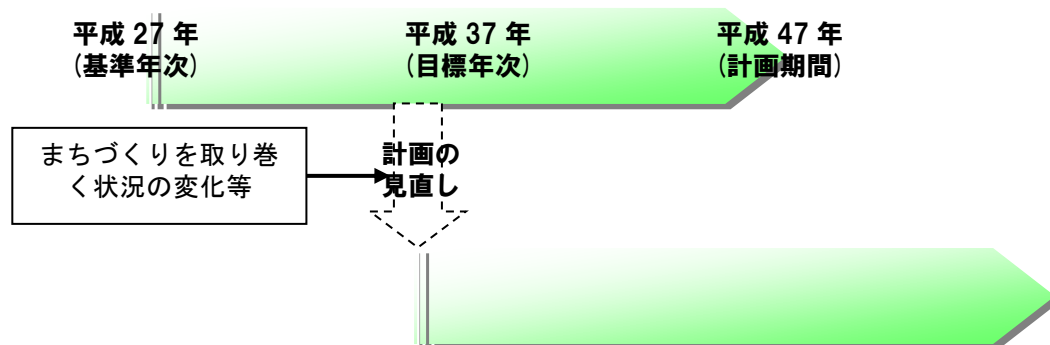


### 3) 計画期間

基準年次を平成 27 年とし、長期的な展望に立ったまちづくりの将来像を描くため、計画期間を 20 年間と設定します。そうした中で、将来像の実現に向けた都市計画の方針については、その実効性を高めるという観点から 10 年後の平成 37 年を目標年次とします。

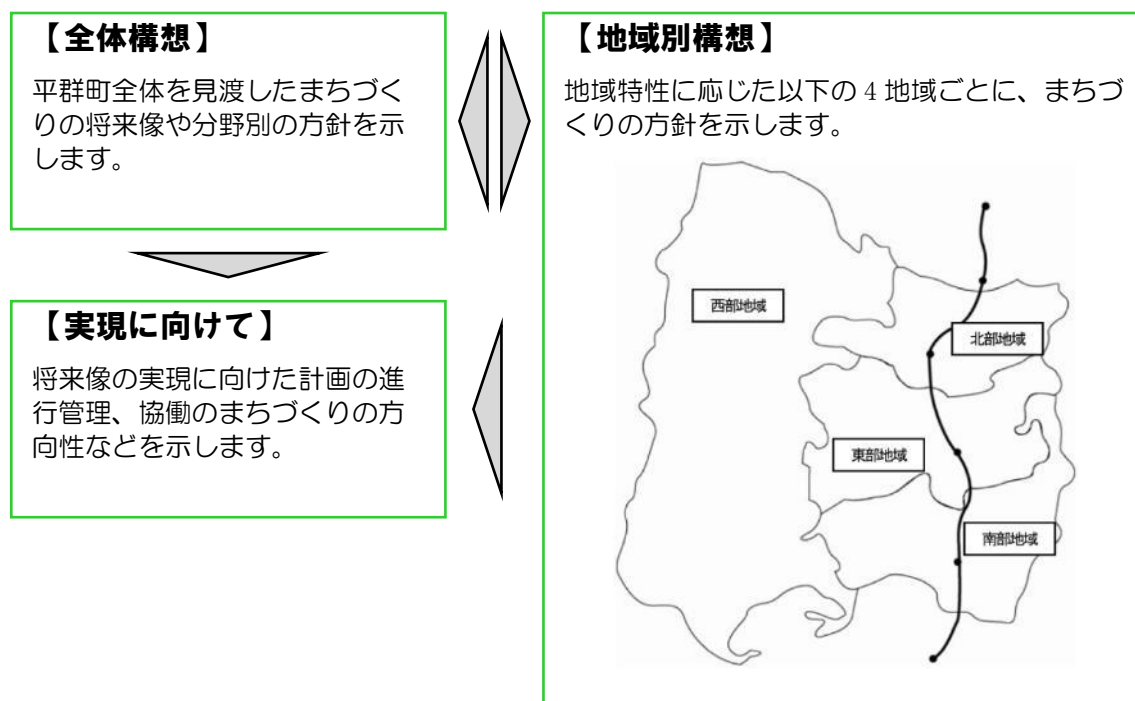
また、まちづくりを取り巻く状況等の確認を行い、必要に応じて計画の見直しを行います。

なお、10 年の計画期間では実施困難と想定される中長期的な取り組みでも、平群町の将来の発展にとって重要と考えられる取り組みについては記載することとします。



### 4) 都市計画マスタープランの構成

本都市計画マスタープランの構成は、以下のとおりです。





## 第I章 平群町を取り巻く状況



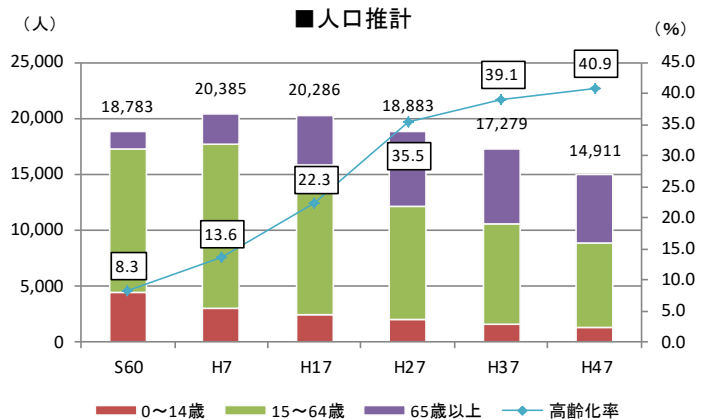
# 1. 平群町の概況

## 1) 平群町の現状

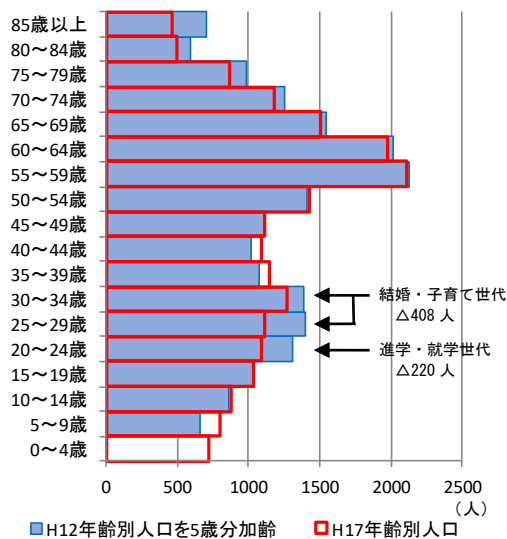
### ①人口

#### ◇人口推計

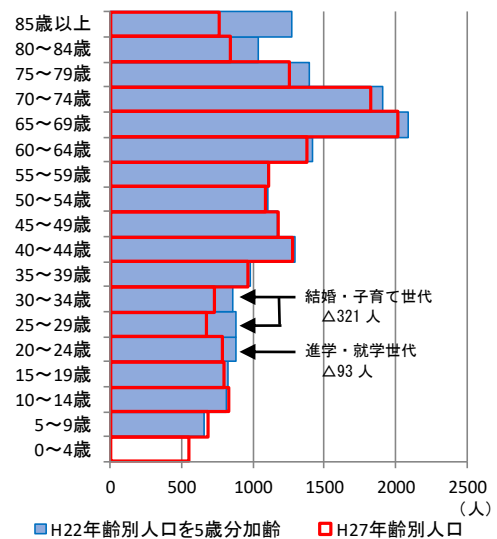
- ・本町の人口は、平成 27 年現在 18,883 人であり、平成 12 年（国勢調査）をピークに今後も減少傾向が続くものと予測されます。
- ・年齢階級別の人口をみると、現行MP 当時と同様に、「進学・就職世代」及び「結婚・子育て世代」などの若年層の人口流出が多くなっています。
- ・また、現行MP 当時と比べると、少子高齢化が進んでおり、地域社会の活力低下が懸念されます。



■5歳階級別人口ピラミッド(H17比較)



■5歳階級別人口ピラミッド(H27比較)

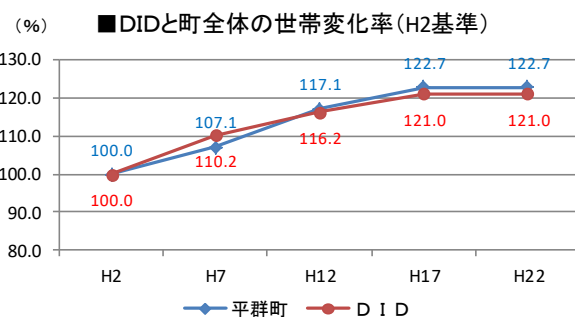
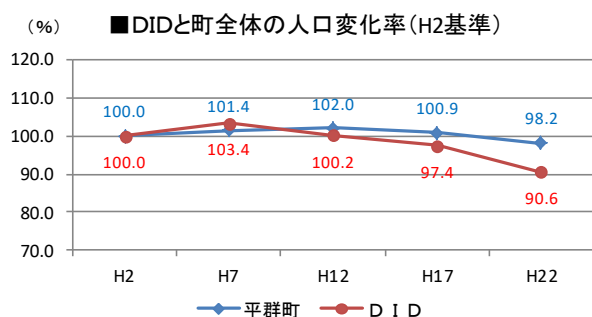


出典：国勢調査

## ②土地利用

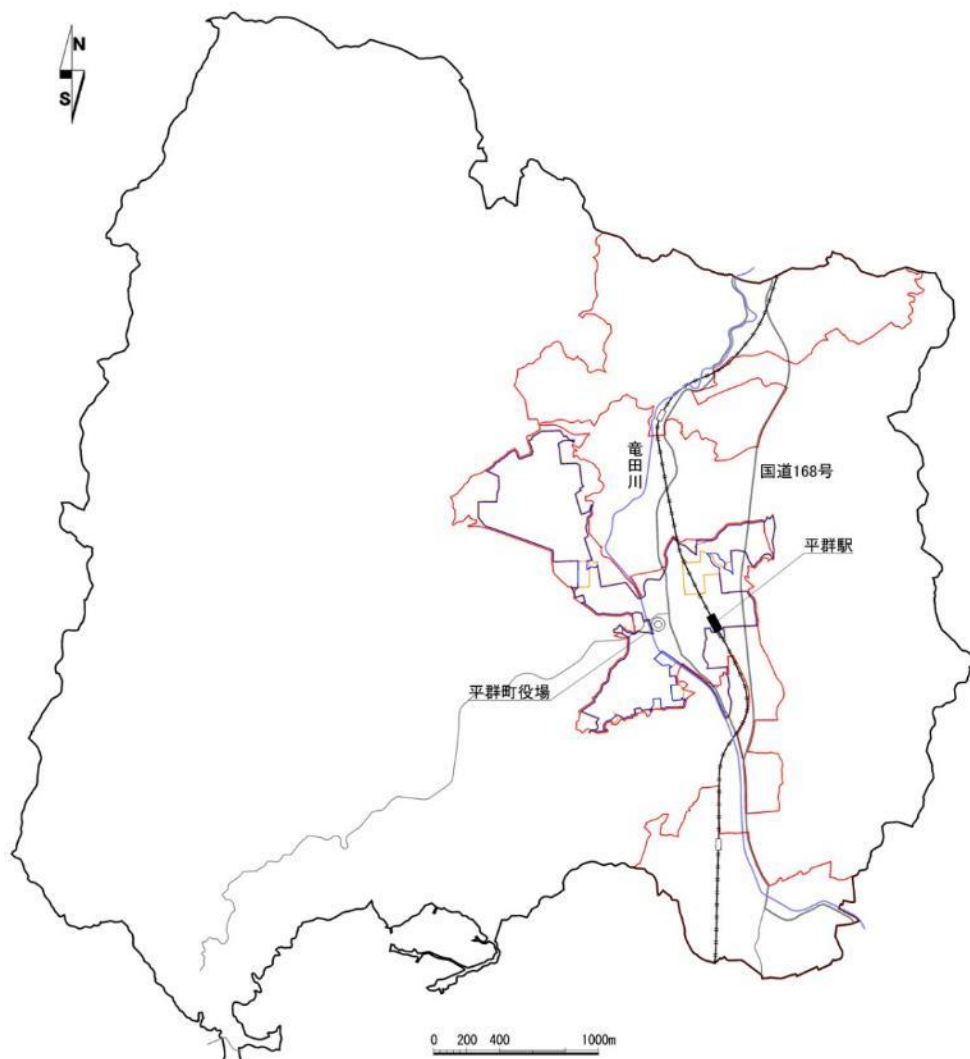
## ◇中心市街地

- ・人口集中地区では、世帯数はほぼ町全体と同様に推移している一方で、人口は町全体より減少傾向が強くなっています。なお、平成 27 年の国勢調査では、この人口減少に伴い、人口総数や密度等の要件を満たさなくなったことから、人口集中地区がなくなりました。
- ・また、国道 168 号平群バイパス沿道での飲食店や大型店舗の立地が進行し、中心市街地の活力の低下が懸念されています。
- ・一方で、現在、平群駅周辺では区画整理事業を推進し、整備区域内には図書館や文化ホール、商業施設の誘致などを計画し、中心市街地の拠点性の向上を目指しています。



出典：国勢調査

## ■人口集中地区の変遷 (H7→H22)

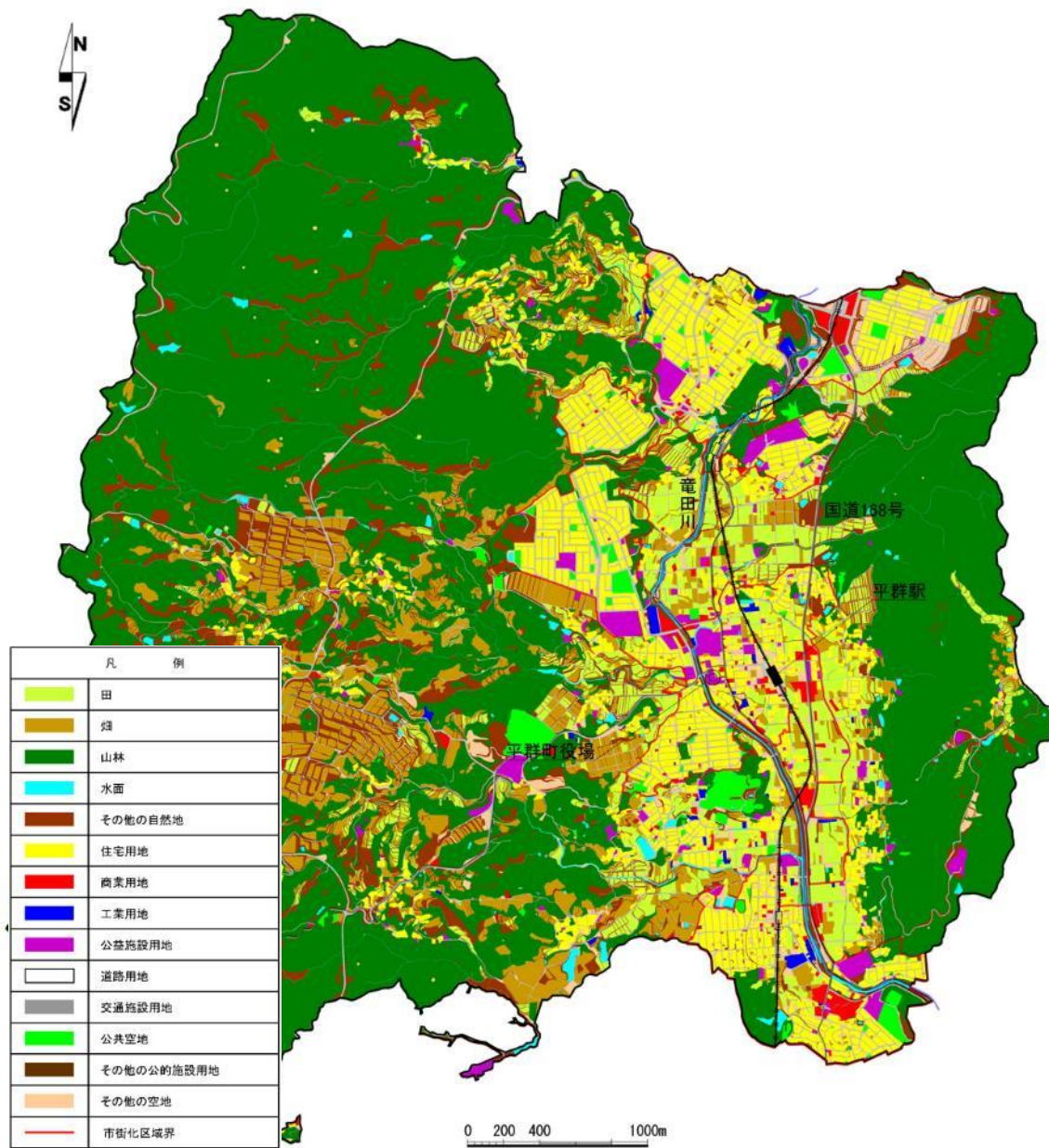


出典：平成 26 年度 都市計画基礎調査

## ◇土地利用の状況

- ・本町は奈良県北西部に位置し、西の生駒山地、東の矢田丘陵の間に流れる竜田川流域の限られた平地に市街地が形成されています。
- ・本町の土地利用の状況をみると、市街地の大部分が住宅用地であり、国道168号平群バイパス沿道に飲食店や大型店舗等の商業施設が点在しています。また、町内には工業用地がほとんど存在しません。

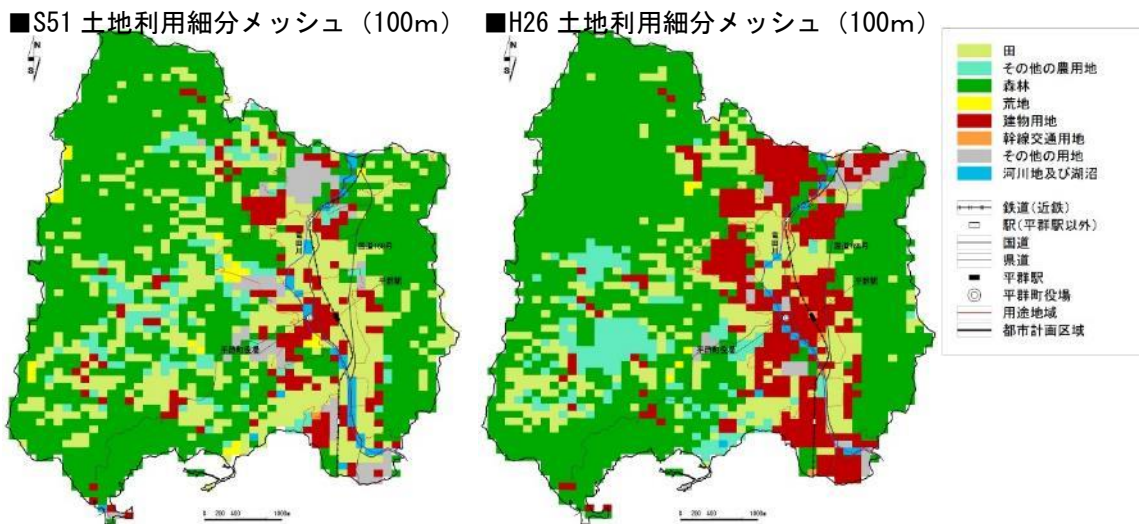
## ■土地利用現況図



出典：平成26年度 都市計画基礎調査

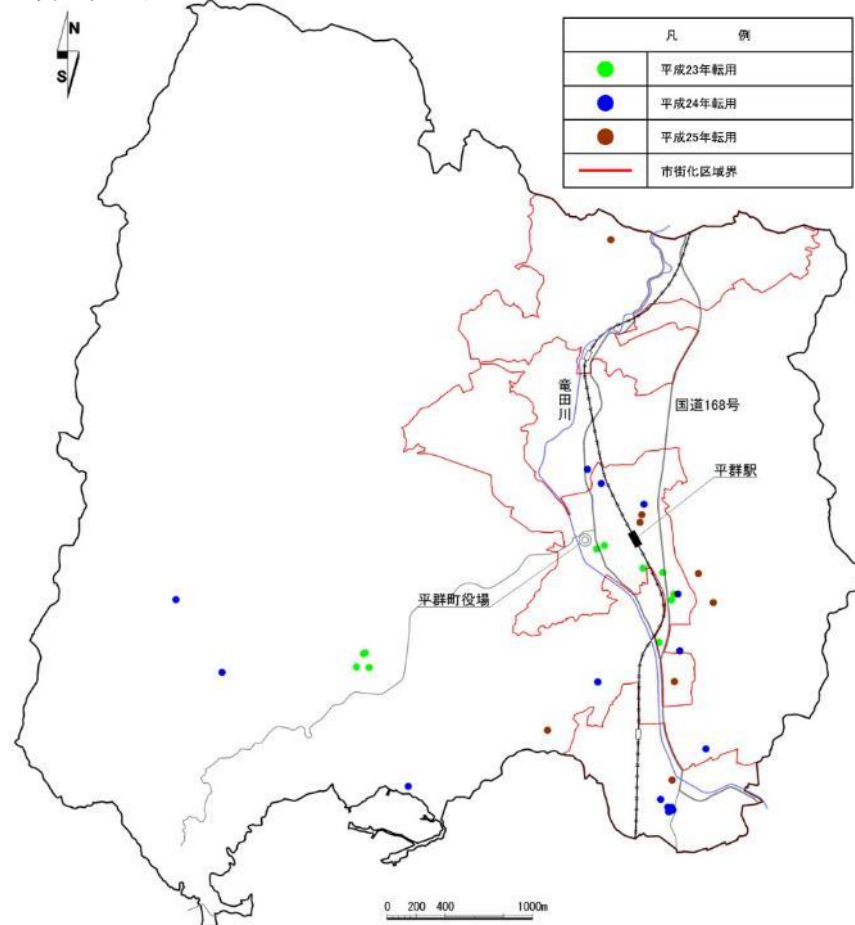
### ◇開発の状況

- ・本町は、高度経済成長期に民間の大規模な宅地開発が盛んに行われ、これにより、昭和 51 年から平成 26 年までの約 40 年間で建物用地面積が約 2 倍（170ha→349ha）となりました。
- ・近年の開発動向をみると、開発許可が年間数件程度、農地転用が年間 10 件前後となっており、開発圧力が高くないことがうかがえます。



出典：国土数値情報

### ■農地転用状況図



出典：平成 26 年度 都市計画基礎調査

### ◇公共施設

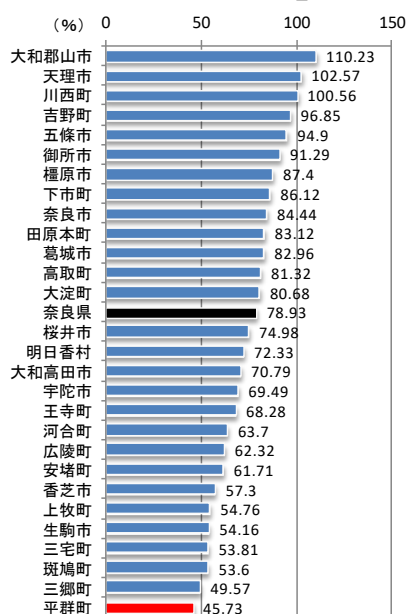
- ・今後、財政状況が非常に厳しくなることが想定される中、持続可能な都市経営を目指して、公共施設等総合管理計画が策定（H29.3）されました。

計画では、今後 20 年間ににおける総延床面積の 20%以上縮減を目標とし、「町全体のニーズを踏まえた、公共施設等の全体最適化を図った施設マネジメントを推進」「資産として効果的、効率的に有効活用」「計画的な整備や修繕・更新等」を行っていくとしています。

## ③産業

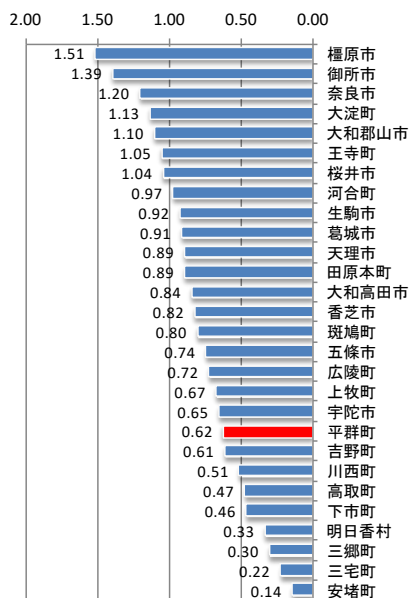
- ・本町の昼夜間就業人口比率（本町の昼間就業者数／本町の夜間就業者数×100）をみると、県内最下位の45.7%であり、就業者の流出率が高い、典型的な大都市近郊の住宅都市の形態となっていることがうかがえます。
- ・小売吸引力指数（奈良県全体の1人当たり年間小売販売額／平群町の1人当たり年間小売販売額×1.0を超えると他市町から購買力を吸引している）は0.62であり、本町の購買力が流出していることがうかがえます。
- ・また、小売吸引力指数、製造品出荷額等とともに現行MP当時とほとんど変化がないことから、産業のぜい弱性が依然として続いていることがうかがえます。
- ・現行MPで設定した上庄地区の工業ゾーンでは、「無公害型企業」の誘致活動を進めており、国道168号平群バイパス西側では既に2社が操業開始し、もう1社の進出も内定し、また、国道168号平群バイパス東側では継続して誘致活動を進めています。

■昼夜間就業者比率\_H22

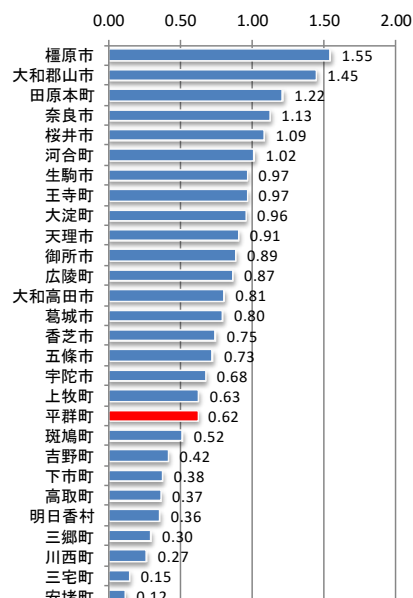


出典：国勢調査

■小売吸引力指数\_H19

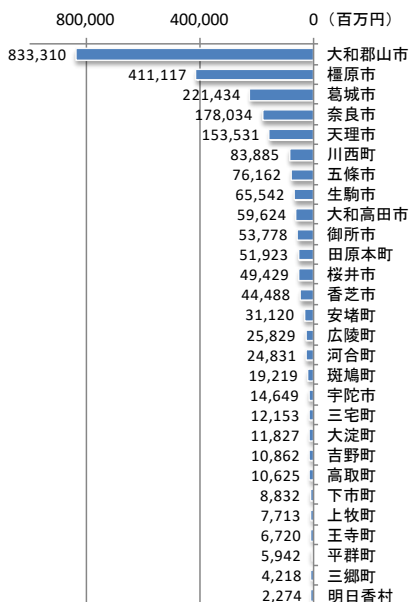


■小売吸引力指数\_H26

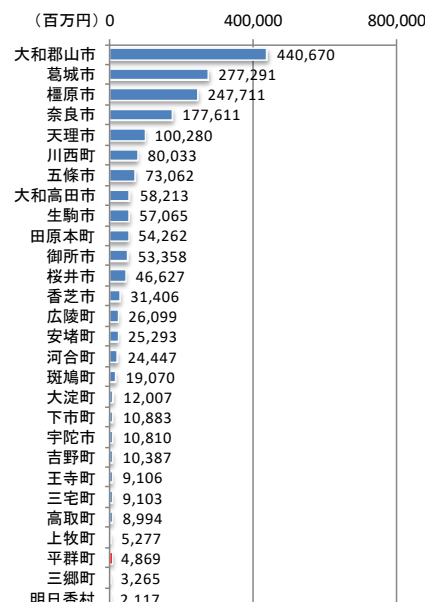


出典：商業統計調査、奈良県推計人口調査

■製造品出荷額等\_H19



■製造品出荷額等\_H26



出典：工業統計調査

#### ④郊外型住宅団地

- ・高度経済成長期に形成された郊外型住宅団地では、今後、一斉に高齢化や住宅・施設等の更新時期を迎え、加えて子育て世代の孤立やコミュニティの希薄化、空き家の増加などが懸念されます。
- ・郊外型住宅団地には第一種低層住居専用地域が指定され、その用途制限や住環境への配慮などから、商業施設や介護・福祉施設など生活利便施設が立地していないのが現状です。そうした中で、本町の郊外型住宅団地は斜面地に形成されたものが多く、高齢者などの交通弱者にとっては今後、日常の買い物や医療・福祉など生活利便性が低下すること（土地利用ニーズの乖離）が懸念されます。
- ・一方で、郊外型住宅団地は道路や公園、下水道などの公共施設整備率が高く、優良なストックとして活用していくことが望まれます。

#### ⑤都市施設

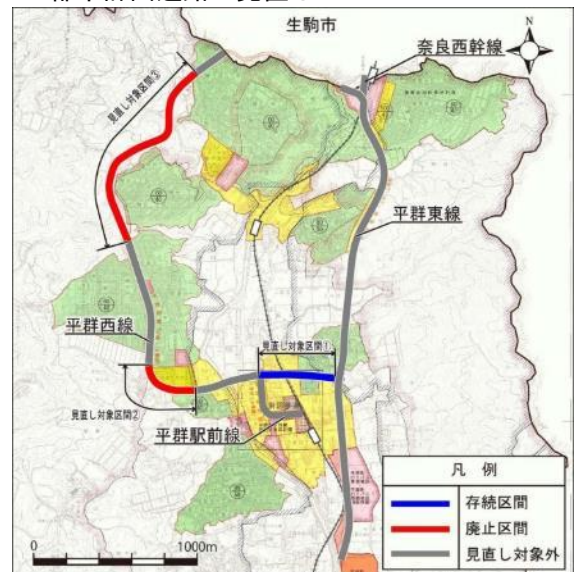
##### ◇交通網

- ・鉄道は、南北に通る近鉄生駒線が北は生駒で近鉄奈良線・けいはんな線、南は王寺でＪＲ大和路線に接続し、大阪の中心部へ１時間足らずで行くことができます。
- ・また、国家の大動脈ともなるリニア中央新幹線の間駅として近隣市町が計画されており、2045年全線開通（予定）によって東京まで約１時間の距離となることから、観光やビジネスなどあらゆる経済への波及効果が期待されます。
- ・道路は、南北に通る国道１６８号平群バイパスを軸として、国・県・町道により道路網が形成され、第二阪奈道路壱分ランプ及び西名阪自動車道法隆寺ＩＣへ１０分足らずと広域な交通アクセスに恵まれています。
- ・一方で、生駒山地及び矢田丘陵に遮られ、東西のアクセス性がぜい弱となっています。
- ・バスは、エヌシーバス（奈良交通（株）子会社）及び平群町コミュニティバスが走っており、コミュニティバスは幅広い層に利用されています。

## ◇道路整備状況

- ・民間の大規模開発により一体的に整備された住宅地では比較的道路基盤は整っていますが、その他の既成市街地等では4m未満の道路も多く、十分とはいえない整備状況となっています。
- ・平成29年に都市計画道路の変更が行われ、(都)平群西線の一部区間が廃止となりました。
- ・現在の都市計画道路の整備状況をみると、(都)平群駅前線が平群駅周辺整備事業により整備中であり、残る未整備区間である(都)平群西1号線((都)平群駅前線～国道168号平群バイパス)を計画的に整備していく予定です。

## ■都市計画道路の見直し



出典：庁内資料

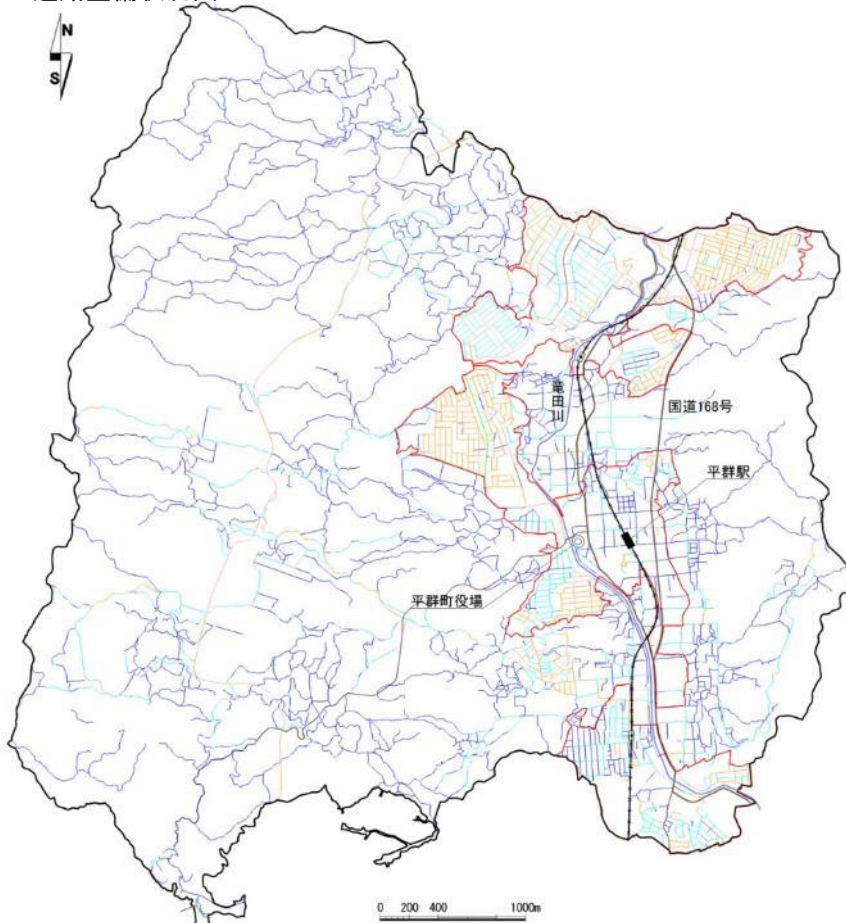
## ■都市計画道路 路線別

| 路線番号      | 路線名    | 当初決定年月 | 幅員<br>m | 計画<br>m | 改良済<br>m | 整備中<br>m | 概成済<br>m | 未整備<br>m | 改良率<br>% |
|-----------|--------|--------|---------|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 3. 5. 260 | 平群東線   | S51.11 | 12      | 3,230   | 3,230    | 0        | 0        | 0        | 100.0    |
| 3. 5. 261 | 平群西1号線 | S51.11 | 12      | 830     | 370      | 0        | 0        | 460      | 44.6     |
| 3. 4. 262 | 平群駅前線  | H18.3  | 19      | 460     | 0        | 460      | 0        | 0        | 0.0      |
| 3. 5. 263 | 平群西2号線 | H29.3  | 12      | 800     | 800      | 0        | 0        | 0        | 100.0    |
| 3. 5. 264 | 平群西3号線 | H29.3  | 12      | 230     | 230      | 0        | 0        | 0        | 100.0    |
| 3. 3. 2   | 平群西幹線  | S51.11 | 23      | 70      | 70       | 0        | 0        | 0        | 100.0    |
|           |        |        |         | 5,620   | 4,700    | 460      | 0        | 460      | 83.6     |

※H29.4現在

資料：庁内資料

## ■道路整備状況図

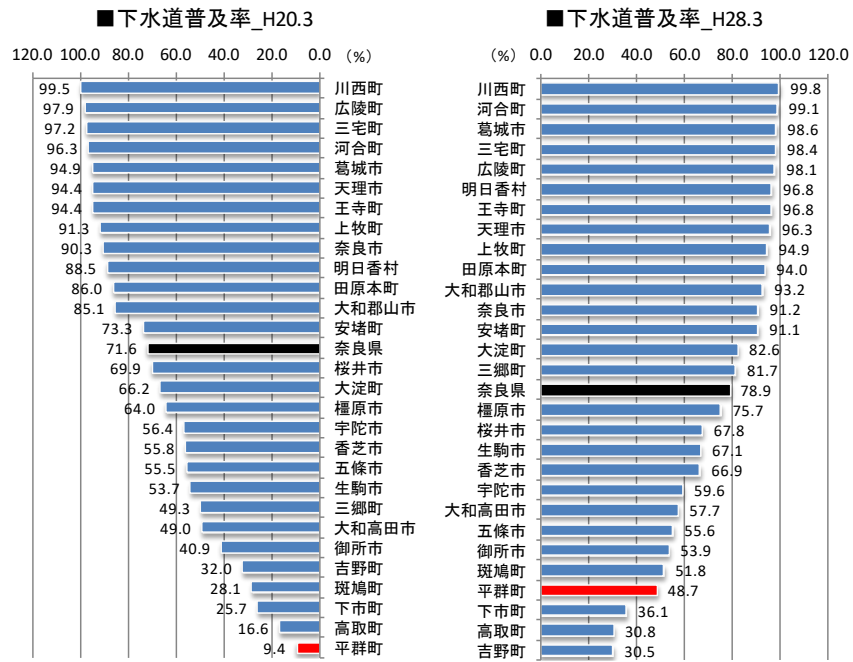


| 凡 例                                                                                                                          |            |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| <span style="background-color: yellow; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 5px;"></span>    | 幅員22m以上    |
| <span style="background-color: green; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 5px;"></span>     | 16m以上22m未満 |
| <span style="background-color: orange; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 5px;"></span>    | 12m以上16m未満 |
| <span style="background-color: pink; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 5px;"></span>      | 8m以上12m未満  |
| <span style="background-color: lightblue; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 5px;"></span> | 6m以上8m未満   |
| <span style="background-color: darkblue; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 5px;"></span>  | 4m以上6m未満   |
| <span style="background-color: purple; border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 5px;"></span>    | 4m未満       |
| <span style="border-bottom: 2px solid black; width: 20px; display: inline-block;"></span>                                    | 鉄道         |
| <span style="display: inline-block; width: 10px; height: 10px; background-color: black; border-radius: 50%;"></span>         | 駅          |
| <span style="border-bottom: 2px solid red; width: 20px; display: inline-block;"></span>                                      | 市街化区域界     |

出典：平成26年度 都市計画基礎調査

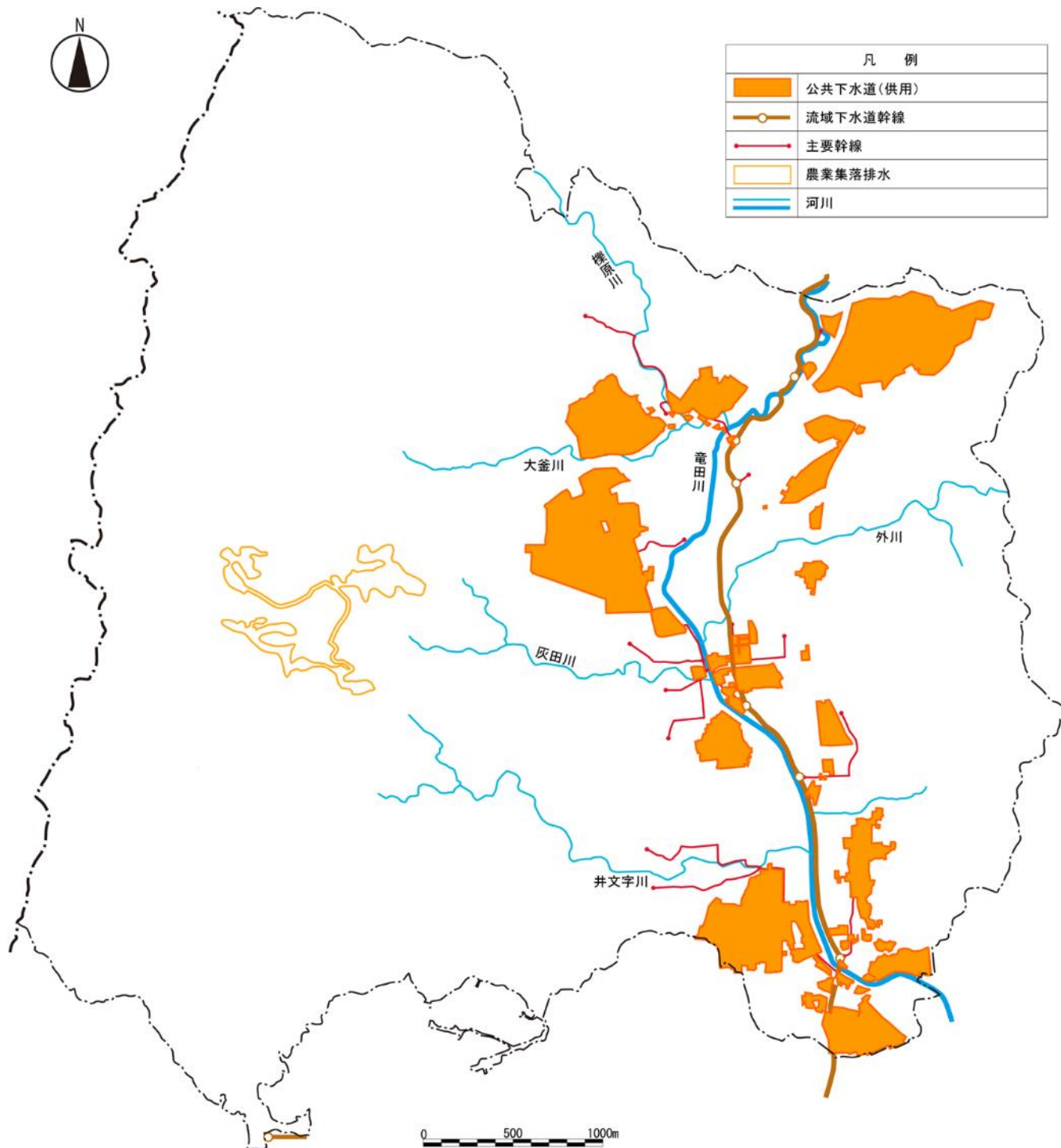
## ◇下水道

- ・平成 27 年度末現在における下水道普及率は 48.7%となっています。現行MP 当時に比べ、飛躍的に普及率が上がったものの、県下で比べると依然として低位に位置しています。



出典：奈良県 下水道普及率

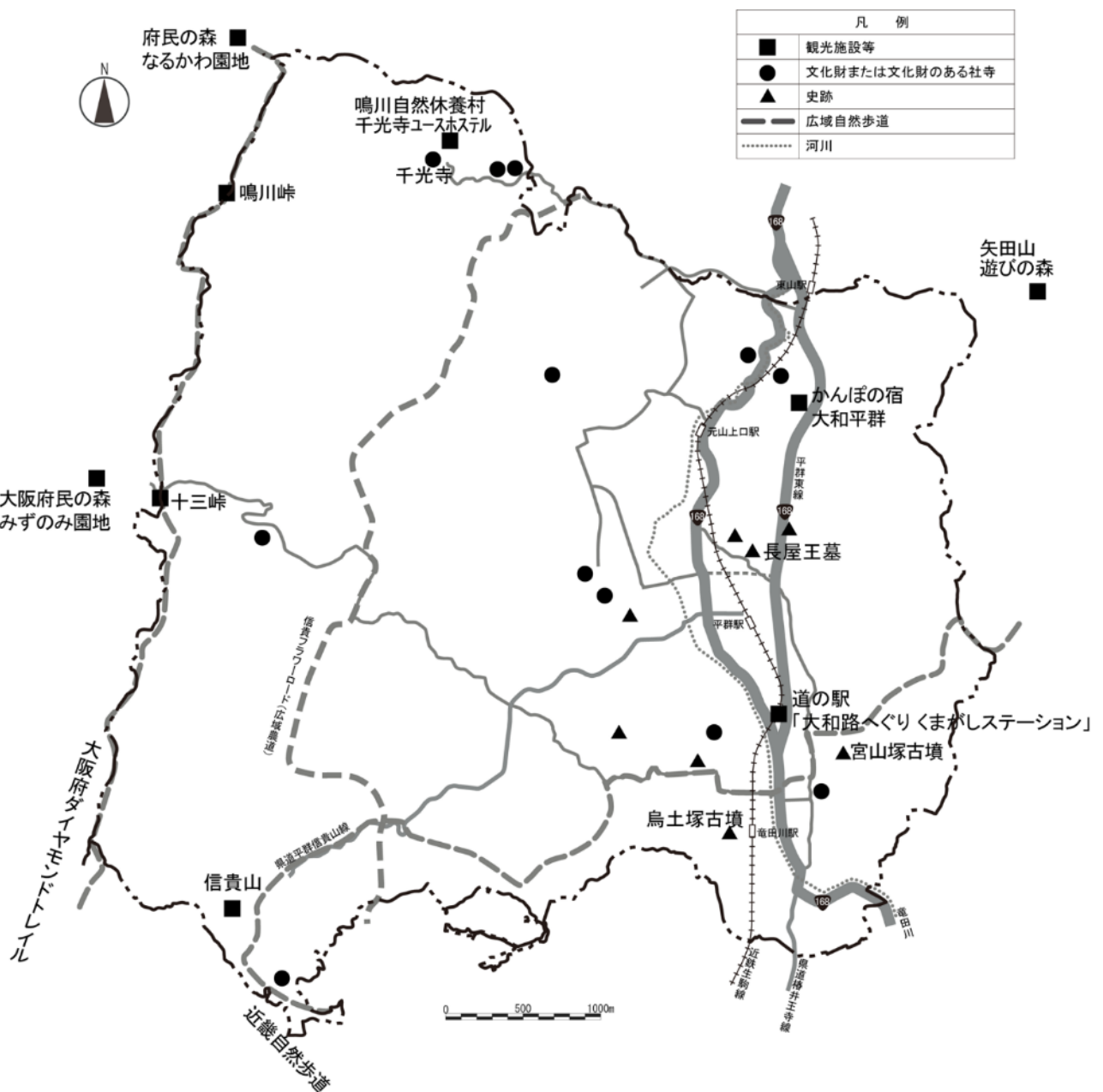
■下水道整備状況図



出典：庁内資料

## ⑥自然環境及び歴史資源

- ・生駒山地と矢田丘陵の緑豊かな自然環境、信貴山朝護孫子寺、鳴川千光寺、長屋王墓・烏土塚古墳などの数多くの歴史・文化資源に恵まれ、多くの観光客が訪れています。しかし、一部では散策道や休憩施設等が未整備となっているなど、これら魅力的な資源を十分には活用できていない状況も見受けられます。
- ・国道 168 号平群バイパス沿いに立地する道の駅「大和路へぐり くまがしステーション」は、地元の特産品・農産物の販売所や飲食機能等を備えた観光拠点として大きな役割を果たしています。
- ・竜田川では、行政と住民の協働による活動を中心としたクリーンキャンペーンの実施や清掃活動、散策道への植樹、水質改善、管理用道路の整備、観光案内板の整備などにより、魅力づくりを推進しています。
- ・一方で、適切な維持管理がなされず、良質な自然環境が荒廃しつつある状況も見受けられます。



## 2) 住民意向

住民意向の把握として、平成 27 年に実施された「平群町人口ビジョン・総合戦略策定のための住民アンケート調査」結果を活用します。

なお、アンケート調査の概要は以下の通りです。

## ◇調査対象

【A】 結婚・出産・子育て世代：住民基本台帳による 16～49 歳の住民 1,000 人

【B】 一般住民：住民基本台帳による 16 歳以上の住民 3,000 人

## ◇調査期間・方法

調査期間：平成 27 年 7 月 27 日から平成 27 年 8 月 7 日まで

調査方法：郵便による配布・回収

## ◇回収状況

有効回答数：【A】 339 件、【B】 1,350 件

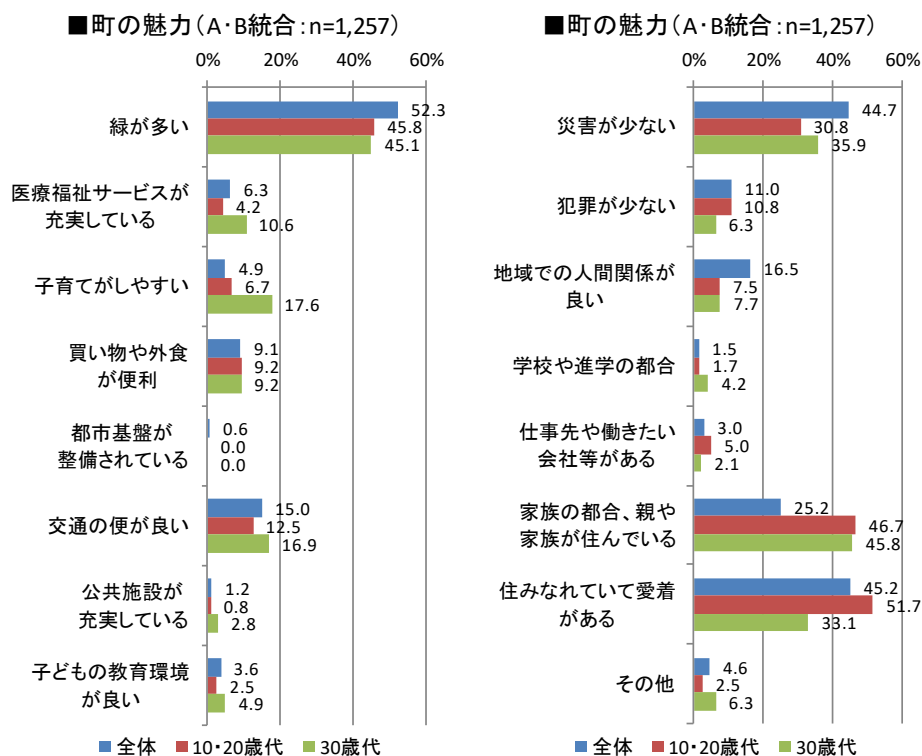
回 収 率：【A】 33.9%、【B】 45.0%

※グラフ中の「n」は、回答者数（実数値）を表しています。

※構成比については、小数第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

## ①まちの魅力

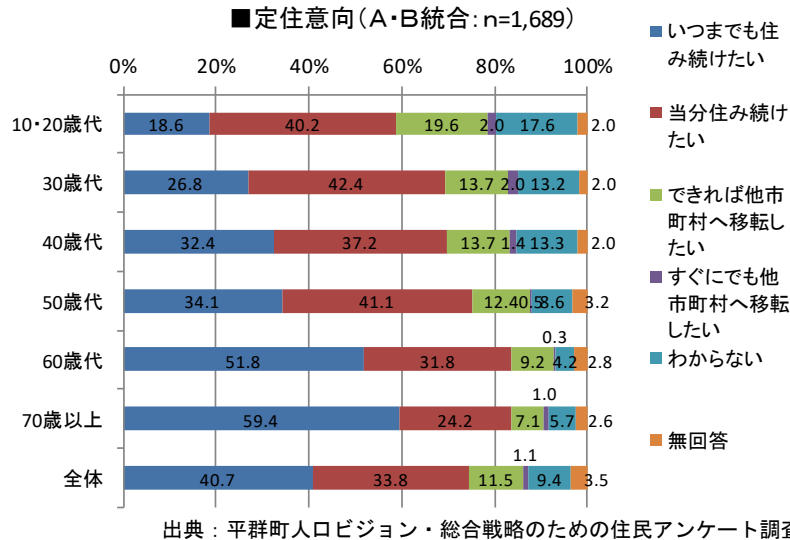
年代を問わず、「緑が多い」「災害が少ない」が本町の大きな魅力となっています。



出典：平群町人口ビジョン・総合戦略のための住民アンケート調査

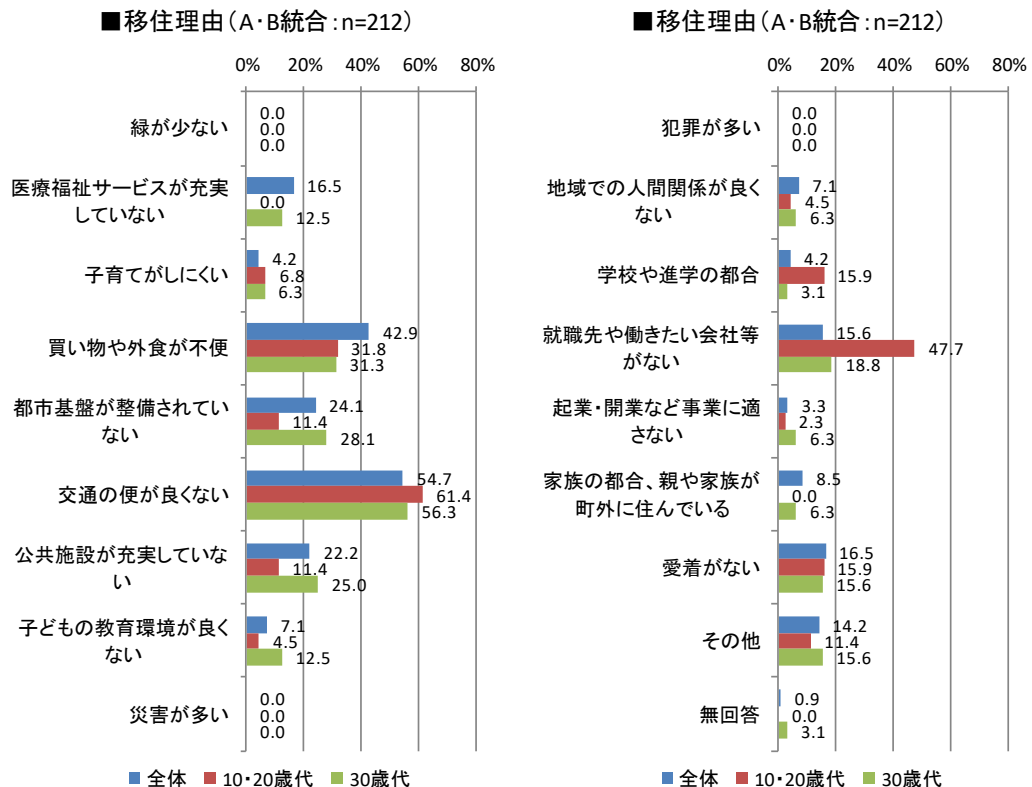
## ②定住意向

定住意向は7割超となっていますが、若年層になるほど定住意向が低くなっており、これら若年層が住み続けられるまちづくりを推進していくことが重要です。



## ③移住理由

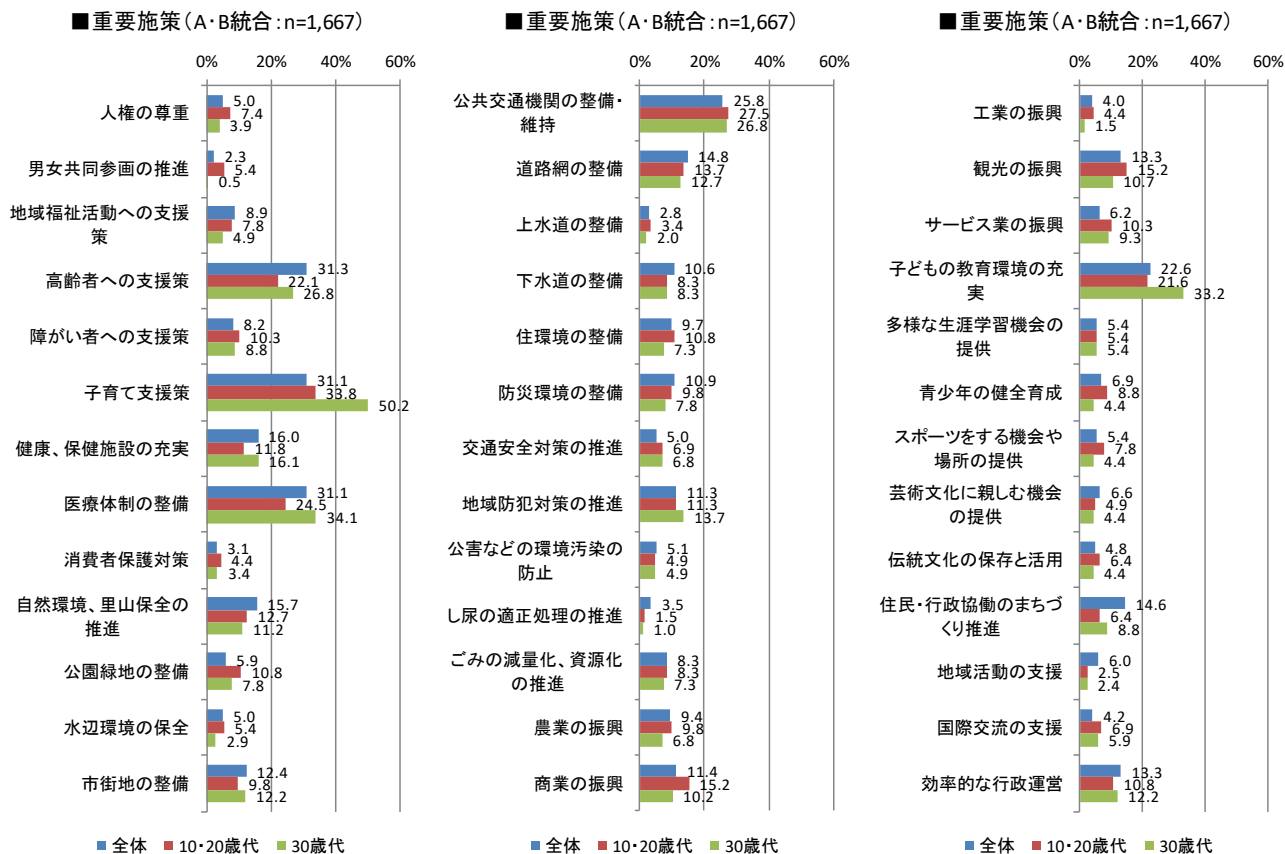
移住理由として、「交通の便が良くない」が最も多く、次いで「買い物や外食が不便」となっています。また、10・20歳代では、「就職先や働きたい会社等がない」の回答が多くなっています。



## ④重要施策

今後特に重要な施策として、「高齢者への支援策」「子育て支援策」「医療体制の整備」「公共交通機関の整備・維持」「子どもの教育環境の充実」が多くなっており、「医療・福祉、子育て支援、公共交通」など、少子高齢化対策への関心の高さがうかがえます。

特に、子育て世代である 30 歳代では、子育て支援・教育への関心が高いことがうかがえます。



出典：平群町人口ビジョン・総合戦略のための住民アンケート調査

### 3) 近年のまちづくり動向（まちづくり戦略）

#### ①子育て・教育

##### ◇子ども医療費無料化を拡充

平成 28 年 8 月の診療分より、子ども医療費無料化（入・通院共）を高校 3 年生まで拡充しました。

##### ◇教育大綱の策定

今後の教育行政の指針となる新教育大綱（H28.1）を策定しました。

##### ◇幼児教育の推進

平成 27 年 4 月に、「はなさと」「ゆめさと」の 2 つの幼保連携型認定こども園を開園しました。

##### ◇学校教育施設の整備

老朽化の進んだ体育館の環境整備やエアコンの設置を行い、より良い教育環境づくりを実施しています。学校の耐震化率は 100%です。

##### ◇社会教育施設の整備

テニスコートの改修や充実した学童保育の運営（保育料の大幅軽減）、読書活動の推進（全小学校に専属の図書館司書配置）、外国語活動の充実（町立こども園・小・中学校に外国人英語指導助手を配置）など、社会教育施設の整備を進めています。

#### ②自然保全

##### ◇竜田川の魅力づくりの推進

桜苗木の世話、プランターの配置、環境美化・保全活動、竜田川の清掃、河川敷の整備などを行い、魅力づくりを推進しています。

#### ③環境循環

##### ◇ごみ減量化

住民の協力を得て、ごみの減量化を実施しています。

#### ④観光・発信

##### ◇広報PR

広報誌や観光オフィシャルホームページ「山のぼっけNAV I.」、公式フェイスブック、ツイッターを活用し、本町の魅力を広く発信しています。

##### ◇文化財資源の保全

有識者や行政関係者を交えた椿井城保全活用協議会の助言・指導のもと、平成 26 年度より 4 箇年計画で椿井城跡の発掘等調査を実施しています。

#### ◇文化財資源の活用

地域住民と連携を図り椿井・信貴山城跡や登城道の整備を行いました。

#### ◇平群ブランド

「いちご“古都華”、ぶどう“デラウェア”、バラ、小菊」など、地域が誇る“良いもの”を平群ブランドに認定し、広く発信しています。

### ⑤産業

#### ◇企業誘致

上庄地区を「工業ゾーン」に位置付け、『無公害型企业』の誘致活動を進めており、国道 168 号平群バイパス西側では 3 社の進出が内定し、うち 2 社が操業を開始しています。

#### ◇商業店舗等の立地誘導

国道 168 号平群バイパス沿道を「生活関連産業拠点」として位置付け、多様な買い物ニーズへの対応と町全体の活性化を目指し、生活関連サービス施設の立地誘導を進めています。

#### ◇地域産業活性化、6 次産業化の推進

農業の 6 次産業化として、平群町の農産物を原材料とした加工品開発に取り組み、地域の活性化に繋がります。平成 27 年度には、近畿大学農学部と民間企業による産学官連携の取り組みにより、日本酒平群「純米生貯蔵酒」と金時芋ジェラート「へぐりっこ」を商品化しました。

### ⑥住み良さ

#### ◇平群駅周辺整備事業（平群駅西特定土地区画整理事業）

事業進捗率は 80%程度となり、平成 28 年度末には都市計画道路平群駅前線の吉新交差点付近の改良拡幅工事、平成 29 年度には駅前広場のロータリーや歩道等の工事を進め、平成 30 年 3 月末の事業完了を目標としています。

#### ◇下水道事業の推進

平成 27 年度末現在、下水道普及率は 48.7%となっています。今後は、集中処理浄化槽のある大規模住宅地、商業施設集積地区、平群駅周辺整備事業地内の整備を進め、下水道経営の安定化と増大するし尿・浄化槽汚泥の削減を目指します。

#### ◇災害に強いまちづくり

災害に強いまちづくりを目指して、地域での自主防災組織の結成(現在 25 団体(結成率 77.4%))を促進しています。また、平群町の防災拠点である平群町総合スポーツセンターでは、防災拠点施設整備工事を行いました。

#### ◇定住化の促進

新規住宅取得者へ「家屋の固定資産税 3 年分」を定住促進奨励金として交付する制度を平成 26 年度に創設しました。

また、空き家対策として、平成 27 年に創設した「空き家バンク制度」を運用し、空き家の流通促進を図るとともに、「空き家等の適正管理に関する条例」に基づき、管理が不十分となっている空き家等の所有者等へ適正管理、並びに利活用を促しています。

#### ◇生駒市との公共施設相互利用

公共施設の有効利用として、図書館及びスポーツ施設の相互利用を開始しました。

#### ◇コミュニティバス事業

平成 27 年にダイヤ・ルートを改正し、幅広い層に利用されています。

#### ◇障害者・高齢者福祉施策

福祉課窓口での手話通訳者の設置、「たすけてカード」の配布、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領」の策定など、障害者・高齢者福祉施策を推進しています。

#### ◇「健康づくり」の推進

「平群町健康へぐり 21 計画」「平群町食育推進計画」などに基づき、心身ともに健やかに暮らせるまちづくりを推進しています。

## 2.時代の潮流と課題

### ①急激な人口減少・少子化と超高齢化

- ・我が国の人口は、2008年の1億2,808万人をピークとして本格的な人口減少時代に突入し、平成27年国勢調査では1億2,709万5千人となりました。
- ・2050年には、現在の6割以上の地点で人口が半分以上に減少し、うち1/3が無居住化になると予測されます。
- ・こうしたことから、人口減少を前提とした持続可能な都市づくりを進めていくことが重要です。
- ・また、長期的に人口を一定水準に保つためには、大都市、地方を通じ少子化対策を推進していくことが重要です。
- ・さらに、どの国も経験したことのない約4割の高齢化率が予測され、高齢社会に対応した都市づくりが急務となっています。

### ②経済停滞と財政制約

- ・バブル崩壊以降、我が国の経済は長らく停滞が続いており、世界的にも金融危機の後遺症や欧州の財政不安への懸念などにより、将来的な見通しが明るいとはいえない状況にあります。
- ・また、我が国の財政状況をみると、バブル崩壊以降、国・地方ともに財政収支の赤字が拡大しており、今後、十分な公共投資や行政サービスの享受が困難となることが予測されます。
- ・こうした状況の中、これまでのように市街地が拡散されると、日常の生活利便性が低下するリスクが高くなるため、日常の生活サービスが中心部等で維持・集積されたコンパクトで持続可能な都市を形成していくことが重要となります。
- ・また、高次の都市機能を維持するためには一定の人口規模（例：人口10万人以上の都市から交通1時間圏内にある人口30万人程度以上の都市圏）が必要とされることから、ネットワークと連携による都市圏の形成が重要となります。
- ・さらに、高度経済成長期に整備された道路や橋梁などの都市基盤が、今後一斉に更新期を迎えることから、厳しい財政状況を鑑み、これらストックの計画的な維持・更新を進めていかなければなりません。

### ③都市間競争の激化

- ・都市間の競争が激化する中、大都市では国際競争力の強化、地方では「多様性」と「連携」による個性ある持続可能な都市を形成することが重要です。
- ・東アジア諸国の賃金上昇などを背景に、製造業の国内回帰の可能性が高まっています。
- ・外国人旅行者やビジネスマンが日常的に来日、滞在する社会が到来しています。また、国内では、自然環境に配慮したライフスタイル、田園回帰や二地域居住、地産地消、食の安全、自転車利用の増加、グリーンツーリズムなど国民の価値観が多様化し、「居住」「食」「健康」「余暇」への関心が高まっています。
- ・こうしたことから、内外の観光需要の取り込み、価値観多様化に対応した地域の魅力創造を図り、「定住人口」だけでなく「交流人口」を確保するとともに、基幹産業の発展、新たな産業の誘致・育成を行い、地域経済の活性化を図ることが重要です。

## ④食料・エネルギーの制約、地球環境問題の顕在化

- ・我が国は人口減少時代に突入していますが、世界的には人口が増加傾向にあり、食料やエネルギーの確保が重要となっています。
- ・また、地球規模の環境問題が顕在化し、とりわけ、地球温暖化の要因とされる温室効果ガスの排出削減が重要とされています。
- ・こうしたことから、担い手の確保や6次産業化、地産地消等による第1次産業の活性化を図り、食料自給率を向上させることが重要です。
- ・また、自然環境の保全、再生可能エネルギーや下水熱の活用、省エネ、集約型都市構造の形成など、持続可能で活力ある都市づくりを進め、低炭素・循環型社会の構築を実現することが重要です。

## ⑤自然災害の多発と被害の甚大化

- ・近年、異常気象ともいえる集中豪雨や竜巻のほか、大規模地震など自然災害が多発し、その被害も甚大化しています。そうした中、我が国では、都市基盤がぜい弱な市街地、高齢化や過疎化などによる災害弱者の増加などが懸念されています。
- ・こうしたことから、ソフト・ハードを組み合わせた多重防御による防災・減災対策を推進していくことが重要です。

## ⑥地方分権改革

- ・住民に身近な行政は、できる限り地方公共団体が担い、その自主性を発揮するとともに、地域住民が地方行政に参画し、協働していくことを目指して、地方分権改革が推進され、6次にわたる地方分権一括法が成立しました。
- ・この地方分権一括法は、地域の自主性及び自立性を高めるための改革を総合的に推進するため、国から地方公共団体又は都道府県から市町村への事務・権限の移譲や、地方公共団体への義務付け・枠付けの緩和等を行ったものです。

## ⑦民間活力の重要性

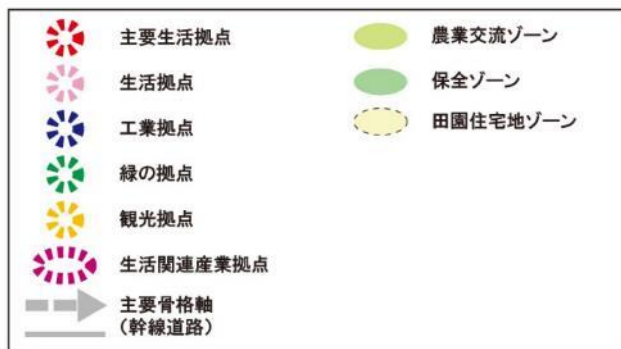
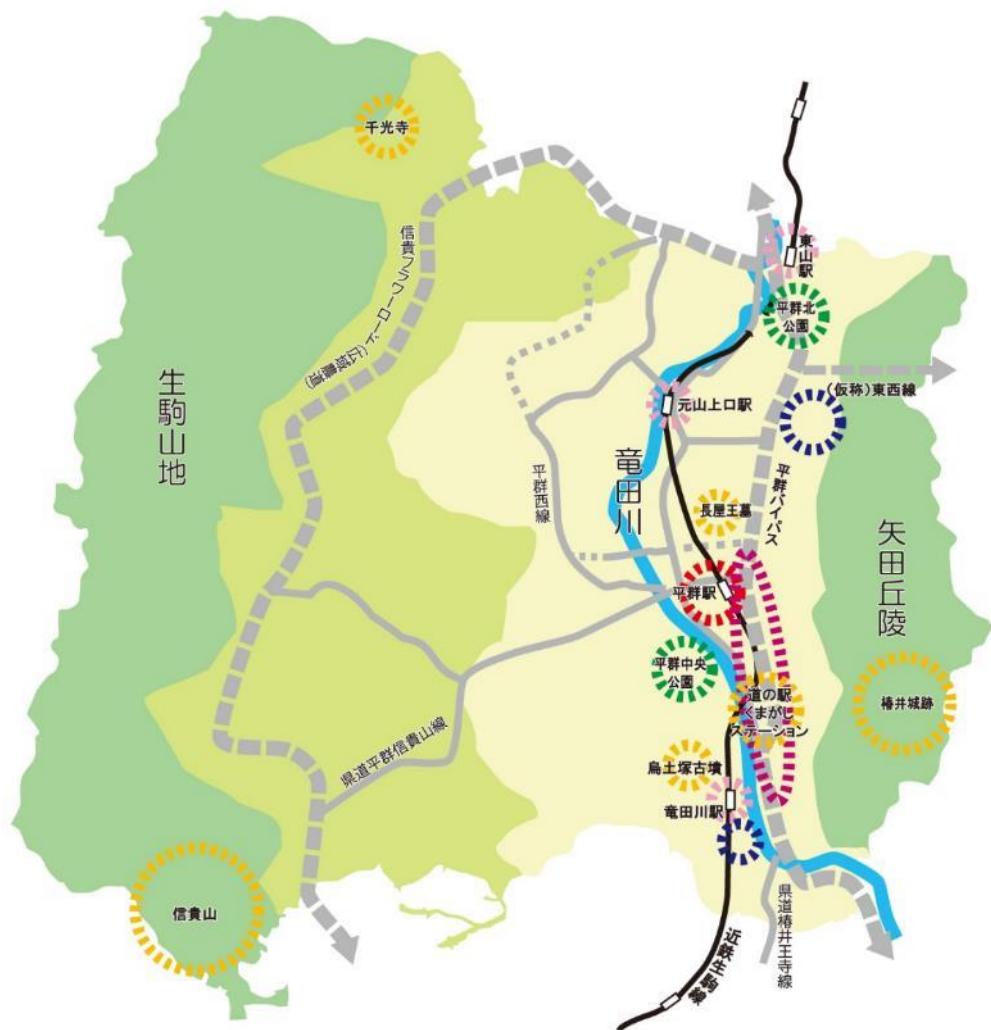
- ・全国的に、住民のまちづくりへの参画意識が高まり、ボランティア活動など社会貢献活動の拡大が見られます。
- ・必要な社会資本が相当程度整備された中、今後は、公共投資が維持更新に比重を移し、住宅、医療・福祉、商業などの民間施設が都市再編の中心的役割を担うことから、民間投資の重要性が高まっていきます。
- ・こうしたことから、まちづくりにおいて住民参画の仕組み・体制づくりを進めていくことが重要です。
- ・また、行政主導型の都市計画にとらわれず、民間活動を重視した柔軟な都市計画の運用、P P P／P F Iなど民間資金・技術等を活用した公共サービスの提供などに取り組んでいくことが重要です。

## 3.上位・関連計画

## 1) 平群町第5次総合計画（H25.4）

|                                        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|---------------------------|--|--------------------------|-------------------------------------|---------------------------|--|---------------------------|--|--------------------------------|----------------------------------------|--------------------------------------------|--|-------------------------|-------------------------|-----------------------------------|--|------------------------------------|
| 計画期間                                   | 平成25年度～平成34年度（10年間）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
| 将来像                                    | 緑豊かで心豊かな 子どもの歓声がきこえるまち                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
| 将来人口                                   | 平成34（2022）年：18,000人（政策目標値）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
| 施策体系                                   | <div style="text-align: center;"> <b>基本戦略</b> </div> <table border="1"> <tr> <td>理念1<br/>平群谷の豊かな緑に包まれて<br/>暮らすまち平群</td><td>自然保全<br/>平群谷の自然を守り伝える環境づくり</td></tr> <tr> <td></td><td>環境循環<br/>自然によりそう暮らしとまちづくり</td></tr> <tr> <td>理念2<br/>地域資源が産業の活性と<br/>未来の希望をつなぐまち平群</td><td>観光<br/>誇りと魅力の源泉となる新しい観光づくり</td></tr> <tr> <td></td><td>産業<br/>地域資源を活かした持続可能な産業づくり</td></tr> <tr> <td></td><td>発信<br/>地域の魅力を共有し、効果的に発信するツールづくり</td></tr> <tr> <td>理念3<br/>子どもの歓声がきこえ、<br/>住み続けたいと実感できるまち平群</td><td>住みよさ<br/>平群の安全安心で高齢者もいきいきと暮らせる便利な暮らしの豊かさづくり</td></tr> <tr> <td></td><td>子育てと教育<br/>“人間力”を育む環境づくり</td></tr> <tr> <td>理念4<br/>人と人がつながる心豊かなまち平群</td><td>コミュニティと交流<br/>多彩な交流の場があり、支え合う地域づくり</td></tr> <tr> <td></td><td>住民参画<br/>人と人、人と資源が会いつなげる、住民主体のまちづくり</td></tr> </table> | 理念1<br>平群谷の豊かな緑に包まれて<br>暮らすまち平群 | 自然保全<br>平群谷の自然を守り伝える環境づくり |  | 環境循環<br>自然によりそう暮らしとまちづくり | 理念2<br>地域資源が産業の活性と<br>未来の希望をつなぐまち平群 | 観光<br>誇りと魅力の源泉となる新しい観光づくり |  | 産業<br>地域資源を活かした持続可能な産業づくり |  | 発信<br>地域の魅力を共有し、効果的に発信するツールづくり | 理念3<br>子どもの歓声がきこえ、<br>住み続けたいと実感できるまち平群 | 住みよさ<br>平群の安全安心で高齢者もいきいきと暮らせる便利な暮らしの豊かさづくり |  | 子育てと教育<br>“人間力”を育む環境づくり | 理念4<br>人と人がつながる心豊かなまち平群 | コミュニティと交流<br>多彩な交流の場があり、支え合う地域づくり |  | 住民参画<br>人と人、人と資源が会いつなげる、住民主体のまちづくり |
| 理念1<br>平群谷の豊かな緑に包まれて<br>暮らすまち平群        | 自然保全<br>平群谷の自然を守り伝える環境づくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
|                                        | 環境循環<br>自然によりそう暮らしとまちづくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
| 理念2<br>地域資源が産業の活性と<br>未来の希望をつなぐまち平群    | 観光<br>誇りと魅力の源泉となる新しい観光づくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
|                                        | 産業<br>地域資源を活かした持続可能な産業づくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
|                                        | 発信<br>地域の魅力を共有し、効果的に発信するツールづくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
| 理念3<br>子どもの歓声がきこえ、<br>住み続けたいと実感できるまち平群 | 住みよさ<br>平群の安全安心で高齢者もいきいきと暮らせる便利な暮らしの豊かさづくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
|                                        | 子育てと教育<br>“人間力”を育む環境づくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
| 理念4<br>人と人がつながる心豊かなまち平群                | コミュニティと交流<br>多彩な交流の場があり、支え合う地域づくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
|                                        | 住民参画<br>人と人、人と資源が会いつなげる、住民主体のまちづくり                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |
| 策定の視点<br>（第4次総合計画からの主な変更点）             | <p>【全体総括】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政健全化、効率的行政運営、子育て支援等は一定成果を得た一方、<b>住民との情報共有等</b>は大きな課題</li> <li>・時代の変化に伴う施策そのものの必要性の整理と、内容の重複を排したシンプルな体系への組換えが必要</li> </ul> <p>【新たな課題】</p> <p>健康福祉：子育て支援策は他都市に比べても充実、青少年の活動の場づくり等が課題<br/> <b>高齢者の生活支援ニーズの確実な増加</b>に、住民・地域と連携してどう対応するかが課題</p> <p>都市環境：<b>空き家対応、循環型社会への対応等</b>、時代のニーズに合った施策と将来都市構造・土地利用のあり方等を検討することが必要</p> <p>産業観光：産業振興施策は抜本的に見直し、<b>6次産業化やブランド中心</b>に新たな産業活性化の取り組みへ</p> <p>教育文化：老朽化した学校施設への対応や、若者が地域で自発的に活動できる環境づくりが課題<br/> 住民による<b>文化振興の気運</b>を活かし、<b>観光振興との相乗効果</b>を図る必要</p> <p>住民財政：行政と住民の<b>協働によるまちづくりを進めるための体制・仕組み・工夫</b>が必要</p>                                                                                                                                                                 |                                 |                           |  |                          |                                     |                           |  |                           |  |                                |                                        |                                            |  |                         |                         |                                   |  |                                    |

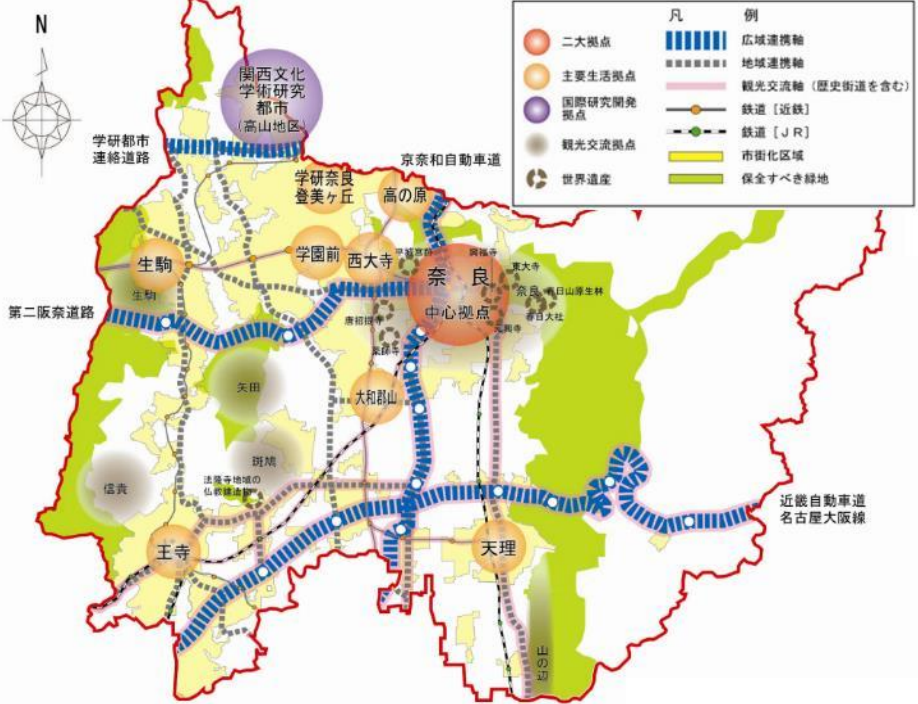
土地利用  
構想



## 2) 平群町まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略 (H28.3)

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 計画期間      | 平成 27 年度～平成 31 年度 (5 年間)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 基本理念      | 住みたい 行きたい 育てたい                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 将来人口      | 平成 72 (2060) 年 : 12,200 人 (政策目標値)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 基本目標      | <p><b>基本目標 1 若者が住める、住みたくなるまちをつくる</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 若者・ファミリー層の定住化促進</li> <li>2 “山のぼっけ” の豊かな暮らし</li> <li>3 “HEGUR i c h” の良好な暮らしの実現 (都市基盤)</li> </ol> <p><b>基本目標 2 子育てしやすい、子育てしたくなるまちをつくる</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 子育て支援の充実</li> <li>2 小さなまちで大きな教育の推進</li> <li>3 ワーク・ライフ・バランスの促進</li> </ol> <p><b>基本目標 3 新たな雇用と交流をつくる</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 平群にふさわしい企業誘致と産業振興</li> <li>2 農業の新たなビジネスモデルの創出</li> <li>3 若者の起業支援</li> <li>4 女性が働きやすい環境づくり</li> <li>5 高齢者の就労支援</li> <li>6 観光振興の推進</li> </ol> <p><b>基本目標 4 地域を守り、地域をつなぐ</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 身近な拠点づくりと地域における生活支援</li> <li>2 安全・安心な地域づくり</li> </ol>                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 平群町の強みと弱み | <div> <div> <p><b>平群町の強み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●平群谷の豊かな自然</li> <li>●都市近郊の多彩な農産物</li> <li>●戸建住宅中心のゆったりとした住環境</li> <li>●道の駅や商業サービス業施設集積により集客力増大</li> <li>●公園、スポーツ施設は高い整備水準</li> <li>●多くの文化財や歴史遺産がある</li> <li>●地価、居住費が比較的安い</li> </ul> </div> <div> <p><b>平群町の弱み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●他都市より少子高齢化が進行</li> <li>●若者層が町外へ流出する傾向</li> <li>●近年空き家が急激に増加</li> <li>●依然厳しい財政状況</li> <li>●平群町の知名度は低い</li> <li>●出生率が低い</li> <li>●雇用の場が少ない</li> <li>●集合住宅が少ない</li> </ul> </div> </div> <div> <div> <p><b>町をとりまく機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域主権への関心の高まり</li> <li>●「新しい公共」に対する関心の高まり</li> <li>●安全安心や循環型社会への関心の高まり</li> <li>●自然やスローライフ等への関心の高まり</li> <li>●地域固有の歴史遺産への関心の高まり</li> <li>●ネット等によるビジネスチャンスの広がり</li> </ul> </div> <div> <p><b>町をとりまく脅威</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少社会の到来に伴う地域間競争の激化</li> <li>●少子高齢化の全国的な進行</li> <li>●経済の不透明性や国全体の財政悪化</li> <li>●地球環境問題の顕在化</li> </ul> </div> </div> |

## 3) 奈良県都市計画区域マスタープラン (H23. 5)

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 計画期間  | 平成 23 年度～平成 32 年度 (10 年間) <概ね 20 年後を展望しつつ>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 将来像   | 奈良の未来を創る～<br>「歴史・自然あふれる 元気で安全・安心な『まほろば』の創出」                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 将来人口  | 平成 32 (2020) 年：1,240 千人 (都市計画区域内) ※大和都市計画区域を対象                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 施策体系  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 改訂の視点 | <p><b>変更の基本的な考え方</b></p> <p>■ 県は、「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」を本県の目指す姿とし、「経済活性化」と「くらしの向上」等に重点的に取り組むこととしており、本県の都市計画としては、<b>都市間競争に生き残り、個性を重視した豊かで活力ある持続可能な都市の実現</b>を目指して、必要な対応を行う。</p> <p>■ そのため、「都市の現状と課題」(第1章)、「都市計画の目標」(第2章)について、<br/> 「奈良らしさを守り・育て・活かす」<br/> 「奈良のまちを元気にする」<br/> 「安全・安心で人・環境にやさしいまちとする」<br/> の3つの体系に再編する。</p> <p>特に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊かな自然環境と恵まれた歴史文化遺産 などの「奈良らしさ」は、<b>引き続き守っていく。</b><br/> ・良好な田園風景<br/> ・ゆとりある低層住宅地<br/> そして、<b>それらを育て、活かしていく。</b></li> </ul> <p>また、<b>吉野三町などにおいて地域の資源を活かした魅力ある地域づくりを推進する。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 滞在型観光振興の促進<br/> ・多様な機能を有する拠点都市づくり<br/> ・産業機能の集積の促進<br/> ・産業・経済を支える道路網の形成<br/> などにより、<b>経済活性化に<br/>つながる都市づくりを推進する。</b></li> </ul> <p>■ 県土利用の基本的な計画として新たに定められた第4次奈良県国土利用計画を踏まえた目標年における人口、産業のフレームを設定する。(第3章「区域区分の有無及び区域区分の方針」)</p> <p>■ 都市計画の課題・目標に対応し、また、各分野の計画等を踏まえて、「主要な都市計画の決定の方針」(第4章)を定める。</p> <p>出典：平成 22 年度 第 148 回奈良県都市計画審議会資料</p> |

## 4) 第4次奈良県国土利用計画（H21）

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 計画期間 | ～平成30年（10年間）＜基準年次：平成17年＞                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 基本理念 | <p>県土の利用は、県土の利用は、県土が現在及び将来における県民のための限られた資源であるとともに、生活及び生産を通ずる諸活動の共通の基盤であることに鑑み、公共の福祉を優先させ、自然環境の保全を図りつつ、地域の自然的、社会的、経済的及び歴史・文化的条件に配慮して、健康で文化的な生活環境の確保と県土の均衡ある発展を図ることを基本理念として、総合的かつ計画的に行うものとします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 想定人口 | 平成30（2018）年：1,318千人（H17 1,421千人） ※奈良県全体を対象                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 基本方針 | <p><b>自然と調和する県土利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 奈良を象徴する歴史的風土や自然環境の保全、これらと調和した土地利用を図ります。</li> <li>○ 自然の健全な物質循環の維持、都市的土地利用にあたっての自然環境への配慮、生物多様性の確保など、人の営みと自然が調和した土地利用を図ります。</li> <li>○ 大和青垣をはじめとする良好な景観の保全と形成を図ります。</li> <li>○ 自然とのふれあいの場となる農山村空間を活用し、都市住民と農山村住民との交流・連携を進めます。</li> </ul> <p><b>安全で安心できる県土利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害に対する地域ごとの適正な土地利用に配慮し、防災拠点やオープンスペースの確保、病院の適正配置、ライフラインの多元化を推進します。</li> <li>○ 災害に関わる情報の周知や災害に強いまちづくりの推進など、減災を意識した土地利用を推進します。</li> <li>○ 森林のCO<sub>2</sub>吸収源等公益的機能の維持・向上を図ります。</li> <li>○ 生活環境の整備など、住みよいまちづくりを推進します。</li> </ul> <p><b>経済活性化につながる県土利用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産業機能の集積促進を考慮した産業立地の計画的な推進を図り、企業等が立地しやすい環境づくりをめざします。</li> <li>○ 京奈和自動車道をはじめとする道路網の総合的な整備など、県内外の地域との交流・連携の促進を図ります。</li> <li>○ 案内施設等の観光交通基盤の整備、多様な宿泊施設の立地促進など、観光客が滞在し周遊しやすいもてなし環境の整備を促進します。</li> <li>○ 優良農地と担い手の確保、県産農産物の販路拡充と地産地消の推進、森林の整備・保全を図ります。</li> <li>○ 活力の維持・向上が課題となっている地域は、都市住民との交流・連携を図りつつ、雇用の確保・創出に向けた地域振興策を展開します。</li> </ul> <p><b>利便性と快適性のあるまちづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 機能分担、交流、連携を前提として、広域的な視点に立った自律性のあるまちづくりを推進します。</li> <li>○ 拠点性のある主要駅を中心とした多様な都市機能を有する市街地の整備の推進を図ります。</li> <li>○ 住宅地は、量的供給から質の確保・向上へ重点を移行し、ゆとりある良好な住環境づくりを推進するとともに、まちなか居住を促進しコンパクトなまちづくりをめざします。</li> <li>○ 都市近郊の農用地、森林の憩いとやすらぎのある空間としての活用、市街地内の低未利用地の有効活用を図ります。</li> </ul> |

## 4.まちづくりの基本的課題

### ①人口減少・少子高齢化

本町の人口は平成 27 年国勢調査によると 18,883 人となっており、平成 12 年 (20,497 人) をピークに 1,614 人減少し、今後も減少傾向が続くことが予測されています。特に本町は、若い世代 (進学・就職世代の 20 歳代と若いファミリー世代の 30 歳代) の人口減少 (流出) が多く、都市の活力や地域コミュニティの低下に大きな影響を及ぼすことが懸念されます。

また、平成 17 年 (22.3%) からの 10 年間で高齢化率が急激に高まり、平成 27 年には 35.5% と 13.2 ポイント上昇しています。これは、昭和 50 年代に建設された郊外型住宅団地に入居した世代が 65 歳を超えた結果であり、将来的には 40% を超えることが予測されています。

#### 【改訂の視点】

- ・人口減少・少子化への対応【継続】
- ・高齢者への対応【新規】

### ②土地利用に対する多様なニーズ

生駒山地と矢田丘陵に挟まれた本町は、限られた平地と斜面地を利用して比較的コンパクトな市街地が形成されており、近年は開発圧力も高くない状況にあります。

そうした中で、中心市街地である平群駅周辺の人口は減少し、都市基盤施設や都市機能も不十分な状況にあったことから、中心市街地の拠点性を高めるとともに平群町の活性化を図ることを目的として、平群駅周辺整備事業を平成 18 年にスタートしました。

また、交通利便性の高い国道 168 号平群バイパス沿道では一定程度の商業施設が集積し、工業ゾーンでは企業誘致を進める中、今後は、定住や高齢化を見据えた子育て支援施設や福祉施設など、新たな土地需要が高まることが予測されます。

さらには、市街化区域内では、空き家や空き地などの低未利用地も増加傾向にあります。

#### 【改訂の視点】

- ・都市構造【新規】
- ・中心市街地の整備【継続】
- ・新たな土地需要 (子育て、医療・福祉等)【新規】
- ・低未利用地の増加【継続】

### ③ ぜい弱な産業基盤

本町の小売吸引力指数は県内で低位にあり、若い世代を含めて住民からは買い物や外食などの利便性向上が求められています。

また、製造品出荷額等も県内で低位にあり、若い世代からは雇用の場の創出が求められていることから、上庄地区の工業ゾーンにおいて、「無公害型企业」の誘致活動を進めています。

本町は「平群の小菊」をはじめとした花卉や果物等を中心とした農業が基幹産業となっており、専業農家の割合が県下で最も高くなっています。

#### 【改訂の視点】

- ・ 商業のぜい弱性【継続】
- ・ 工業（雇用）のぜい弱性【継続】
- ・ 農業の優位性【新規】

### ④ 衰退する郊外型住宅団地

本町では郊外型住宅団地が住宅用地の大半を占めています。しかしながら、これら郊外型住宅団地では高齢化が進み、空き家などが増加傾向にあります。

一方で、これら郊外型住宅団地は、道路等の公共施設整備率が高く、ゆとりある敷地とあいまって良質な居住環境を有しています。

#### 【改訂の視点】

- ・ 郊外型住宅団地の高齢化、空き家の増加【継続】
- ・ 優良ストックである郊外型住宅団地【新規】

### ⑤ 利便性の低い都市基盤

本町は、南北に通る国道 168 号平群バイパスを軸として道路網が形成されており、第二阪奈道路や西名阪自動車道の I C へ 10 分足らずと広域な交通アクセスに恵まれています。一方で、幹線道路は南北の国道 168 号平群バイパスのみであり、東西アクセスのぜい弱性による生活利便性の低下、代替性・多重性の欠如による災害時の安全性低下や産業活動への影響などが懸念されます。

また、南北に通る近鉄生駒線により大阪の中心部へ 1 時間足らずと鉄道アクセスにも恵まれています。加えて、リニア中央新幹線の間駅が奈良市付近に計画されており、将来的には飛躍的にアクセスが良くなり、観光やビジネスなど経済への波及効果が期待できます。

エヌシーバス及びコミュニティバスが走っており、コミュニティバスは幅広い層に利用されています。

本町の下水道整備率は、平成 28 年現在 48.7%となっており、平成 20 年（9.4%）より 8 年間で 39.3 ポイント上昇しています。それでも、県内で比べると低位にあります。

#### 【改訂の視点】

- ・ 東西アクセスのぜい弱性【継続】
- ・ 交通の代替性・多重性の欠如【新規】
- ・ 交通の将来展望（リニアの効果）【新規】
- ・ 低位な下水道整備率【新規】

## ⑥豊かな自然環境と歴史・文化資源

本町は、生駒山地や矢田丘陵等の緑、市街地の周囲に広がる農地、歴史的な魅力も高い竜田川など良質で豊かな自然環境、信貴山朝護孫子寺、鳴川千光寺、長屋王墓・烏土塚古墳など数多くの歴史・文化資源に恵まれ、本町の魅力として町民にも認識されています。

しかし、これら自然環境では荒廃の状況もみられ、歴史・文化資源も観光資源として有効に活用されていない状況もみられます。

## 【改訂の視点】

- ・豊かな自然環境の荒廃【継続】
- ・歴史・文化資源の活用が不十分【新規】

## ⑦協働のまちづくりへの気運の高まり

全国的に住民のまちづくりに対する参画意識が高まり、まちづくりにおいて住民の力が発揮できる仕組みや制度、体制づくりを進める地方公共団体が増えています。

本町においても住民意識の高まりを受け、町政住民説明会（タウンミーティング）の開催、竜田川のボランティア活動など活動の場の提供など、協働のまちづくりを始めてはいますが、住民相互並びに行政と住民の交流・連携などが十分とはいえず、これら住民の想いを活かしきれていない状況もあります。

また、今後は公共投資が維持更新に比重を移し、住宅、医療・福祉、商業などの民間施設が都市再編の中心的役割を担うことから、民間投資の重要性が高まっていきます。

## 【改訂の視点】

- ・参画意識の高まり【新規】
- ・協働への不十分な対応【新規】
- ・民間の重要性の高まり【新規】

